おおや

11月号 R8.10.30

学校教育目標「心豊かでたくましい子の育成」

発行責任者
校長 湯本 貴幸

上尾市立大谷小学校 上尾市大字大谷本郷528 電話 048(781)0120

心に残る言葉を、自分の生き方につなげる

校庭の木々も色づき始め、秋の深まりを感じる季節となりました。朝夕の冷え込みに、いよいよ冬の訪れも感じられるようになりましたが、子供たちは毎日、明日の運動会に向けて元気いっぱいに学校生活を送っています。先日は、校内音楽会に多くの方にご参会いただき、ありがとうございました。また、PTA の皆様には運営のお手伝いをいただき、円滑に進めることができました。改めまして、心より感謝申し上げます。

10月の最終週に行った講話集会では、「心に残る言葉を見つけよう」をテーマに話をしました。言い換えれば、「座右の銘」です。座右の銘とは、自分が大切にしている言葉や、自分の生き方の支えとなる言葉のことです。エジソンの「失敗を恐れず挑戦する姿勢」や、ヘレン・ケラーから学ぶ「仲間と協力すること」や「困ったときには助けを求めること」の大切さなど、著名な人物の言葉には、私たちがよりよく、より強く生活していくためのヒントがたくさん詰まっています。子供たちには、そうした言葉に触れながら、「自分なら、どんな言葉を大切にしたいか」を考えてほしいと伝えました。

私が大切にしている言葉の一つに、「幸せになる力とは、『自分を振り返る力』をつけること」という言葉があります。これは、校長室にも掲示している言葉です。自分の行動を振り返ることは、できなかった自分を責めることではありません。「次はこうしてみよう」「明日はもう少し頑張ってみよう」と、これからの自分をよりよくするために考えることです。自分を振り返ることは、前に進むための大切な一歩です。日々、自分を見つめ直し、一歩ずつ成長していくことが、幸せになる力につながるのだと考えています。

もう一つ、私が大切にしている言葉があります。それは、「感謝とは、広く大きな心で生きること。多くの人や目には見えない大きな力に守られ、生かされていると感じること。」という言葉です。学校は、教職員だけでなく、子供たち、その家族や地域の方々など、多くの人に支えられています。また、太陽や水、空気といった自然の恵みも、私たちの命を支えてくれています。当たり前だと思っている日常の中にも、たくさんの支えがあることに気付き、感謝の気持ちをもって生活していくことが大切です。私自身も、そのことをいつも心に刻んでいきたいと思っています。

言葉は、迷ったときに進む方向を教えてくれたり、くじけそうなときに背中を押してくれたりするものです。子供たちにも、心に残る言葉を一つでも見つけ、それを自分の生き方につなげてほしいと願っています。そして、自分を振り返り、周りの人への感謝を忘れず、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。